

銀賞

仕事を好きになる

西部石油株式会社 山口製油所

竹内 信介

「どうしてSさんはそんなに仕事ができるんですか」入社して数年後オペレーターとして伸び悩んでいた私が職場の皆から尊敬されているSさんにそう聞くと、Sさんは笑いながら「俺は仕事が好きだからな」そう答えました。この一言が今でも私の心に染みついています。

入社5年目の春、石油精製プラントのオペレーターとして日々の業務に励む私の元に新入社員のH君が配属されました。配属されて間もない頃は教えられたことをメモに取ることで精一杯だった彼も1年後にはさまざまな作業をこなすようになり、人並み以上に成長していく姿を見て感心していました。ある日、パトロールの最中H君に呼び止められ、話を聞くと、とあるポンプのフラッシングストレーナーが閉塞しているような気がするので一緒に見てもらえないか、とのことでした。そのポンプは私もパトロール中に一度確認した後だったので「さっき見たときはちゃんと流れていたよ」と言うと、「いつもより少しですけど、流量が少ない気がします」そう言うので、H君と一緒にストレーナーの清掃作業を行うと微量ではあったものの確かにストレーナーは詰まっていました。「こんな小さな変化に気づくなんてすごいね」私がそう言うと、H君は思いもよらぬ言葉を発しました。「僕、仕事が好きなので！」冒頭で述べたSさんと同じことを笑顔で答えるH君を目の前に、私はドキッとするとともにあのときにはわからなかった「仕事が好き」という言葉の意味がやっと理解できた気がしました。仕事が嫌いなわけではないけど「仕事が好き」ではなかった私は設備に対して人並みの意識しかなかったので、小さな変化に気づけず、「仕事が好き」な彼は設備に対して並々ならぬ意識・興味があるからこそ小さな変化に気づけたのだと確信したのです。

その日から私は「仕事が好きになれるかはわからないけど、今まで以上に仕事に興味を持とう」と心に決めました。しばらくすると同じポンプのフラッシングストレーナーの閉塞が頻繁におこるようになり、そのポンプはとても重要度が高く、ストレーナーの清掃作業にはキャビテーションの危険が付き纏うのでいつも緊張して作業するみんなの姿を見て、これはチャンスだなと思いこの

問題を解決すべく動き始めました。先輩オペレーターの方々の協力もあり、試行錯誤するうちにフラッシングオイルの取り出し位置が近年設置されたフィルターの手前でありスケールやドレンが多く、ストレーナーが閉塞する原因になっていること、取り出し位置をフィルターの出口側に変更すればいいのではないかという答えにたどり着きました。この案が社内で採用、その翌年に改善工事が行われフラッシングストレーナーの清掃回数は見事に激減しました。

しばらくしてSさんから「あの改善良かったよ。皆が楽になったね」そう言われたとき、確かな達成感を感じるとともに「仕事が好き」と心のどこかでそう思える自分が、そこにはいました。数年前、当時は到底そう思えなかった私の意識を大きく変えてくれたH君には頭が下がる思いです。彼がいなければ皆の苦労を見てチャンスだと思う私もいなかったでしょうし、何よりこの達成感によって「仕事が好き」と思えたのは、他ならない彼のおかげだからです。昨年、新入社員が配属されH君が教育を担当しています。さまざまな作業を必死でメモにとっている彼もまた「仕事が好き」そう感じる日が来ることを信じて止みません。